

# 相談分科会について

## 1 設立趣旨

障害者相談支援は、本人のニーズに寄り添い、地域生活への意向や安定した生活に向け、様々な情報提供をはじめ、自己決定に必要な提案、助言、支援を行うという極めて重要な役割を担っています。

そこには、制度・サービスありきではなく、利用者のニーズや望む暮らしを実現するために、地域の社会資源を活用し支援計画を作成・実行するとともに、地域のネットワークや社会資源の改善・開発にむけたまちづくりに努めるといった役目も担っています。

しかしながら、個々の相談支援専門員の感性や力量、事業所の経営基盤等に頼るところが多く、財源・人員体制の脆弱さを背景に、結果として相談員のバーンアウトや、サービスは利用していてもサービス等利用計画に移すことができない多数の障害児・者の現状があります。

相談支援事業所は、地域で暮らす障害児・者の方々が、安心して暮らす社会の構築に向けて、今後さらに地域課題の解決やネットワークの構築を目指していく必要があり、中立・公平な相談支援活動を実施するとともに、互いの知識・技術の交流及び研修を行うことにより資質の向上を図りたい。

また、事業所で抱えている困難事例の解決や地域課題の抽出を行いながら、当市の実情をふまえたネットワーク構築、社会資源の改善・開発にむけ活動行っていく。

## 2 1年間の取り組み

<令和元年年8月～令和2年7月までの取り組み>

### (1) 相談分科会勉強会

平成25年より、相談支援事業所の相談支援専門員が集まって、月1回勉強会や情報交換を行い、平成29年8月からは、久留米市地域生活支援協議会のなかの相談分科会としての位置づけで活動している。

活動内容としては、相談支援専門員が知りたい社会資源や行政からのお知らせ、困難事例の事例検討の他に、相談支援専門員の質の向上を図ることを目的に外部講師を招いての研修を企画した。

頻度としては、毎月1回 第3木曜日に実施していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため令和2年7月の事務局会議により隔月開催となった。参加者としては毎回40名前後の参加者がある。

年月日	内 容	参加人数
2019.8.29	講義・グループワーク 「野中式 事例検討を学ぼう」 講師 相談支援事業所さくら	34名
2019.9.19	講義・グループワーク	45名

	「ケースメソッド II」 講師 久留米大学社会福祉学部	
2019.10.17	講義・グループワーク 「アセスメントについて」 講師 久留米大学社会福祉学部	39名
2019.12.3	情報交換会	37名
2020.1.16	講義・グループワーク 「対人援助におけるコミュニケーションスキル」 講師 九州大谷短期大学表現学科	33名
2020.2.20	特定加算事業所における業務の工夫や経営 講師 さくら相談支援ステーションくるめ東 講師 相談支援事業所 バンビーノ	36名

2019年11月は、強度行動障害支援者養成研修のため中止  
2020年3月以降は新型コロナウイルス感染防止対策のため中断  
2020年7月より、感染症対策を行ったうえで隔月にて再開した。

## (2) 実践研究会

エリアに分かれての実践研究会を実施

## (3) 久留米市坂ヘルプカード

相談支援専門員から災害時の不安についての声を受け、災害ワーキングを立ち上げ、ヘルプカードお試し版を作成するとともに、特別支援学校や地域活動支援センターの利用者に試行して頂き意見をもらい改善を行った。

お試し版ヘルプカードは久留米市障害者基幹相談支援センターのホームページに掲載し、障害者福祉課の窓口にも置いていただけるよう依頼し、また、書き方や使用方法についてもチラシを作成し啓発を図っている。

## 3 課題

- ・災害の多発や新型コロナ感染症対策において相談員の不安が大きいことから対応策を検討していく必要がある。
- ・ソーシャルワークとサービス等利用計画の質の担保
- ・サービス等利用計画に載らないセルフプランの多さ
- ・医療や教育機関との連携の難しさ
- ・適正なサービス支給量
- ・定期的な事例検討会

## 4 事業計画

<令和元年8月以降の取り組み>

ア) 研修会・意見交換会

## イ) 実践研究会

相談支援専門員が相談ネットへ参加する目的としては、「ネットワークづくり・情報交換」「専門性のための研修機能」「社会資源の情報収集」を求めている場合が多く、これまでは集合形式での講義やグループワーク・説明会等を行い、毎回40名近くの参加者があった。

また事例の検証や積み重ねをしていきたいということで、昨年度よりエリア別に分かれての実践研究会を実施してきた。

だが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために3月以降のこれらの活動は中断しているのが現状である。

事務局会議においては、感染防止の観点から今後の会議・研修の開催方法については密を避けることが望ましいため、会期や会場等今後のあり方を検討した結果、隔月の集合開催とし、その間には事務局会議や実践研究会を実施していくことになった。

活動計画は災害や新型コロナウイルス感染防止等、相談支援専門員の関心の高いテーマを取り上げ、随時検討していきたい。

今後も感染防止に配慮した研修や意見交換等実践研究会を検討していきたい。

### 主なメンバー

アップルハート久留米相談支援センター	相談支援ステーション千歳
日陽	ホリカワ相談支援室
さくら相談支援ステーションくるめ東	相談支援事業所バンビーノ
ウェル城島相談支援センター	ラスカルサポート
ウェルあらき相談支援センター	相談支援センターみづま
相談支援事業所夢の紀	相談支援センターカリブ
共に働くまちづくりワークショップマリア	サポートセンターK`s
相談支援センターいちばく	グッドバイ相談支援事業所
相談支援グローリー	のぞえの杜
相談支援センターレガート	相談支援事業所ピアくるめ
相談支援センターあかり	Freedom.
特定相談支援事業所ほのぼの	ぶどうの木
相談支援事業所オアシス	リカバリーセンターくるめ
相談支援事業所まほろば	相談支援事業所 Symbi
サポートセンターTANOSHIKA	Q-ACT
相談支援事業所 言葉の森くるめ	相談支援事業所ハッピー
相談支援事業所ライフサポート博美	相談支援センターまんまる

※上記事業所に所属している1名～4名、計56名で構成。